

小ゆび折り年數へては今更にさびしうなりぬ聲や立てまし。時折りは忘れやせむと我が年を我が名をひとり口ずさみする。火桶などかこみてあまた語らへば手の氣にかゝる冬の夜哉。もの思ふわれさまたげん何ものどあらずうれしき天となりにけり。明日の日はわれ知らねどもしかれどもゆきつく迄をゆき／＼てみまし。世馴れたる人のよくするあしらひをそと眞似てわが心笑ひぬ。電燈のふと消えてけるたまゆらにうれしくもわきぬ幼き心。つくねんと眺めてあればともすれば君も見えなく我も見えなく。なにやらむものゝ失せたるこゝちする余りに多くかたりし我は。口とくもあらがひければわが心うつろになりぬさびしいかなや。蛇が来る盗人が来るどひたぶるに恐ろしかりし夜の口笛。文机に雖ならべて友あまたすわれはをさるさびしうなりぬ。文机に雖段なんごしつらへるしばしの我の和げる心。雖祭るかゝるさびのいつまでもうれしといふがうれしかりけり。(破常)

ギリシャの地山高く水清きこゝ今尙千古の如し。ローマの府繁榮の津にして文化の中心たるこゝ古昔に譲らす。而も古の文化にして富強なる民族社會は今何の所に在る。古の猶太國は大民族なり。一度その社會組織の滅亡せしより其の子孫離散して世界に漂泊す。今の猶太人は智巧人に絶し、財力他を壓す。歐洲人の畏れて忌む所たり。而も歸するに故國なく他人の國に浮浪して其の苛酷なる鞭撻に甘んず。個人智にして且つ富むといへども、合同して民族社會を成し、其の獨立を維持するにあらざれば、以て世界生存競争に對峙する能はざるこゝ知るべきなり。—愛國心—(種積八束)

報 録

◎第廿八回文科學術談話會記事

大正三年二月二十一日開催しました。その席上で最近歐洲から御歸朝になりました保科先生から興味あるお話を承ることが出来ましたことを深く先生に感謝致します。

講演順序

- 一 將來の婦人 保科 先生
- 一 中世の心に就て 文二 荻野よし
- 一 東京市の交通 文三 窪田 けい

本會も次第に發展に向ひつゝあります。自由なより充實したものにせねばならぬと存じます。何處にかうつろがあるやうな氣がしてなりません。會員諸姉の御努力を切望します。

◎退會者 (文科會賛助員)

阿部 みな 大正三年一月退會

◎第七回會計報告

收入 金八拾參圓五拾貳錢

内 譯

金參拾圓貳拾壹錢

前より繰越 高